

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	2-1-2	4-1-2	事業名	既存施設を活用したNPOとの協働による新しいコミュニティ拠点づくり事業
担当	西区市民部地域振興課まちづくり調整担当係 佐藤 641-2400(内線253)			
全体計画（当初）				
事業内容	地下鉄琴似駅構内地下2階に開設した「ターミナルプラザことばパス」をNPO法人による運営に転換し、これまでの芸術文化の発表・観賞の場としての機能だけではなく、市民と各種団体とのネットワークづくりの場、まちづくり活動情報の集積・発信の場としての機能を持たせ、市民自らまちづくりに参画するモデルケースの蓄積を市民・NPO・西区が協働で進める。NPO法人によるパス運営(多様な市民ニーズの柔軟な対応によるホール稼働率向上、利用者数増) 様々な活動団体が集う場づくり(市民主体のまちづくり活動を誘発するためのフォーラム・イベントの開催支援) まちづくり活動情報の集積・発信支援(まちづくり活動のPR支援、琴似や八軒の歴史的資源の活用による地域コミュニティ活動支援など)		<年度別の事業内容>	
			<p>平成16年度 NPO法人コンカリーニョによる運営に転換</p> <p>平成17年度 NPOによる運営の継続、人材育成やネットワーク形成促進を目的とした独自事業をを展開し利用者数の増加を図る ・芸術文化によるコミュニティ再生支援事業(文化庁「文化芸術による創造のまち」支援事業) ・西区文化フェスタなどの区主催行事等</p> <p>平成18年度 17年度事業の継続に加え ・地域再生計画との連携による市民活動団体等支援総合事業(内閣府「市民活動団体等支援総合事業」) ・施設・備品の老朽化に伴うメンテナンス(修繕等)</p>	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成16年度事業内容(決算)		平成17年度事業内容(決算)	
	<p>1 利用状況 ()内は平成15年度実績</p> <p>(1) パスホール(ギャラリー含む) 538件 19,503人 (86件 8,748人)</p> <p>(2) パススタジオ 2,037時 1,831人 (1,334時間 1,228人)</p>		<p>1 利用状況</p> <p>(1) パスホール(ギャラリー含む) 648件 21,497人</p> <p>(2) パススタジオ 2,528時間 2,074人</p>	
事業内容 (量・場所・規模等)	平成18年度事業内容(決算)		評価(成果)	
	<p>1 利用状況</p> <p>(1) パスホール(ギャラリー含む) 486件 14,195人</p> <p>(2) パススタジオ 2,702時間 2,878人</p>		<p>【ホール及びスタジオ稼働率に見る芸術文化の波及】 ホール稼働率は18.2%(15年度)から最大約3倍の59.2%(17年度)へと上昇し、3カ年平均も50.9%と当初目標を達成。スタジオ稼働率も20.7%(15年度)から27.4%へと上昇し、3カ年で区民の約3割に相当する61,978人が利用した。このことからまちづくり・コミュニティの拠点として一定の成果を得たと考えられる。 【施設の知名度、演目の質の向上】 NPO法人の積極的な広報により多くのメディアに出るようになり、有名なアーティストの出演も多くなった。</p>	
課題				
<p>開設以降、西区内ではトライアングル広場開設やまちづくりセンターが持つまちづくり活動拠点機能の強化などコミュニティ拠点が広がりを見せており、文化芸術施設も生涯学習総合センターやコンカリーニョ劇場の開設など充実が図られている。この結果、当施設の稼働率低下は否めず、更に施設・備品の老朽化に伴うメンテナンス等運営費の増大が見込まれる中で、当該施設の今後のあり方や区単独による運営管理の意義について、過去3年間の実績を検証しつつ早期検討し、また、利用状況に即応した施設運営を図ることが必要である。</p>				
19年度以降の方向性・事業の予定				
<p>平成16年度から平成18年度までの3カ年事業により、コミュニティ拠点として一定の成果を上げたが、今後は地下鉄駅直結等立地条件に恵まれた芸術文化施設として全市的な視野に立った検討が必要である。</p>				

